

## 2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年2月3日

上場会社名 積水化成工業株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4228 URL <https://www.sekisuiplastics.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 柏原 正人  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 (氏名) 佐々木 勝巳  
 コーポレート戦略本部長 TEL 03-3347-9618  
 四半期報告書提出予定日 2020年2月14日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年3月期第3四半期の連結業績（2019年4月1日～2019年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	103,514	22.2	2,593	△22.7	2,398	△29.2	1,523	△33.4
2019年3月期第3四半期	84,696	0.3	3,356	△10.9	3,385	△10.6	2,288	△11.4

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 970百万円 (34.6%) 2019年3月期第3四半期 721百万円 (△84.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	33.63	—
2019年3月期第3四半期	50.52	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	152,140	66,519	42.7
2019年3月期	153,491	66,960	42.5

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 64,979百万円 2019年3月期 65,193百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	13.00	—	17.00	30.00
2020年3月期	—	13.00	—	—	—
2020年3月期（予想）	—	—	—	17.00	30.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2020年3月期の連結業績予想（2019年4月1日～2020年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	136,000	20.8	3,800	△20.6	3,500	△26.7	2,250	△28.1	49.68

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期3Q	46,988,109株	2019年3月期	46,988,109株
② 期末自己株式数	2020年3月期3Q	1,697,882株	2019年3月期	1,696,864株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期3Q	45,290,779株	2019年3月期3Q	45,291,680株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(企業結合等関係)	9
(セグメント情報等)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年12月31日)の世界経済は、長期化する米国・中国の貿易摩擦や緊張の高まる中東地域の地政学リスク、英国のEU離脱決定による欧州経済への影響、排ガス規制等に端を発した欧州自動車ビジネスの低迷等、先行き不透明な状況が続いています。日本経済におきましては、輸出や生産の弱さが続いているものの、雇用・所得環境の改善が続く中、緩やかな回復基調で推移しています。日本の発泡プラスチック業界におきましては、原油価格の動向や物流コストの上昇、台風等の自然災害などによる需要減少など厳しい経営環境が続きまして。さらに、消費増税や天候不順、新型コロナウイルスの発生などの経済への影響も懸念されます。また、海洋ごみ問題をはじめとする環境課題対応の重要性が一層増加しております。

このような経営環境のなか、当社グループは前中期経営計画で取り組んだ変革を更に強化すべく、2019年度からの3カ年中期経営計画「Make Innovations Stage-II」を策定し、「事業ポートフォリオの変革」と「収益体質強化に向けた戦略の実行」を進化させるとともに、環境リーディングカンパニーの位置づけを確固たるものにするため、施策を着実に推進しております。また当第3四半期連結会計期間には、前期に買収しましたProseatグループの2019年1月1日から9月30日までの9カ月間の業績を含めております。その結果、売上高は1,035億1千4百万円(前年同期比22.2%の増加)、営業利益は25億9千3百万円(前年同期比22.7%の減少)、経常利益は23億9千8百万円(前年同期比29.2%の減少)、親会社株主に帰属する四半期純利益は15億2千3百万円(前年同期比33.4%の減少)となりました。

以下、各セグメントの業績は次のとおりであります。

#### <生活分野>

生活分野の売上高は443億6千万円(前年同期比9.2%の減少)、セグメント利益は24億8千7百万円(前年同期比12.7%の増加)となりました。

食品容器関連は、スーパーやコンビニ向けなどで年末需要の取込みを想定していましたが盛り上がりを欠く状況が続きました。農産関連では期前半は堅調に推移しましたが、後半は大型台風の影響を受けました。また水産関連は、漁獲量の減少により需要低迷が続きました。一方、建材・土木関連では、競技施設やそれに付随する建築・道路工事など、主に首都圏での物件獲得が寄与し順調に推移しました。

主力製品である「エスレンシート」(発泡ポリスチレンシート)の売上数量は、汎用食品容器向けは堅調に推移しましたが、前期に好調であった電子レンジ加熱に対応した耐熱食品容器向けは伸長が一巡し、カップめん容器向けなどの需要低迷を受け、前年同期並みとなりました。「エスレンビーズ」(発泡性ポリスチレンビーズ)の売上数量は、盛土やライフグッズ用途が好調であったものの、その他の需要は総じて低調となり、前年同期並みとなりました。利益面では、前期前半は原燃料価格高騰の影響を受け、価格改定に時期ずれが生じ悪化しましたが、徹底したコスト削減や価格改定に取り組んだ結果、前年同期に比べ増加しました。

#### <工業分野>

工業分野の売上高は591億5千4百万円(前年同期比65.1%の増加)、セグメント利益は6億6千9百万円(前年同期比60.4%の減少)となりました。

家電・IT関連では、「ピオセラン」(ポリスチレン・ポリオレフィン複合樹脂発泡体)などを用いた液晶パネル搬送資材用途は上期好調でしたが徐々にその伸びを欠く状況になりました。また「テクポリマー」(有機微粒子ポリマー)などを用いた液晶パネルなどの光拡散用途は、下期からの回復を見込んでおりましたが、在庫調整の回復が想定以上に遅れたことにより、前年同期を下回りました。自動車関連では、自動車部品梱包材用途は米中貿易摩擦などでサプライチェーンも影響し伸び悩む状況になりました。「ピオセラン」などを用いた部材用途においては、国内自動車メーカーでの堅調な推移により、グローバルに採用が拡大しました。Proseatグループについては、欧州自動車メーカーの販売不振などを受け業績が低調に推移し、連結利益面でマイナスの影響となりました。一方、Proseatグループにおける生産性の改善や当社製品の欧州自動車メーカーへの販売に関する商品開発の目処が立つなど、買収の成果をあげるべく対応を進めております。医療・健康関連では「エラストイル」(熱可塑性エラストマー発泡体)は、ランニングシューズのミッドソールで新規モデルの採用も進み売上が伸長しましたが、「テクノゲル(ST-ge1)」(機能性高分子ゲル)は、中国から米国への最終商品が貿易摩擦などの影響を受けた関係で、低調に推移しました。

当社は「環境リーディングカンパニー」を目指し、「“活”プラ」を図るべく、従来から注力している3R活動(Reduce、Reuse、Recycle)に加え、2R(Replace、Re>Create)を含んだ「SKG-5R」活動を推進しています。

「エラスティル」の製品ラインナップの拡大として、新たに、植物由来素材を用いて既存製品が持つ高いパフォーマンスを維持する「エラスティル」BIOを開発しました。「エラスティル」BIOは、「SKG-5R」活動における「Replace」の開発のひとつであり、石油由来の素材から持続可能な植物由来の材料に置き換えた一例です。この開発にとどまらず、当社は事業を通じて持続可能な社会に貢献していきます。

## (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、1,521億4千万円（前連結会計年度末比13億5千1百万円減）となりました。資産の部では、現金及び預金、受取手形及び売掛金の減少などにより流動資産が39億2千3百万円減少しました。また、有形固定資産の増加などにより固定資産が25億7千2百万円増加しました。負債の部では、支払手形及び買掛金の減少や短期借入金の返済などにより、流動負債が143億5千8百万円減少し、固定負債は社債及び長期借入金の増加などにより134億4千8百万円増加しました。純資産は、その他の包括利益累計額及び非支配株主持分の減少などにより、4億4千1百万円減少して665億1千9百万円となり、自己資本比率は42.7%となりました。

当第3四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況については、営業活動によるキャッシュ・フローは、仕入債務の純減の影響などにより、前年同期に比べ12億1千7百万円収入が減少し、32億7千3百万円の収入となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出の減少などにより、前年同期に比べ24億7千2百万円支出が減少し、37億4千3百万円の支出となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、社債の発行による収入があったものの、短期借入金の純減（返済）の影響や長期借入金による収入の減少などにより、前年同期に比べ40億2千5百万円支出が増加し、21億9千6百万円の支出となりました。この結果、現金及び現金同等物の当第3四半期連結会計期間末残高は、前連結会計年度末に比べ32億2千4百万円減少し、80億4千7百万円となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第3四半期までの連結業績の進捗および第4四半期以降の市場環境動向等を踏まえ、2019年4月24日に公表した2020年3月期連結業績予想を変更しております。詳細につきましては、本日（2020年2月3日）公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

### 2020年3月期通期連結業績予想数値の修正（2019年4月1日～2020年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円
前回発表予想（A）	145,000	4,900	4,800	3,200	70.65
今回修正予想（B）	136,000	3,800	3,500	2,250	49.68
増減額（B-A）	△9,000	△1,100	△1,300	△950	—
増減率	△6.2	△22.4	△27.1	△29.7	—
（参考）前期実績 （2019年3月期）	112,593	4,784	4,776	3,129	69.09

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	11,278	8,055
受取手形及び売掛金	32,915	30,896
電子記録債権	3,541	4,386
商品及び製品	7,937	8,256
仕掛品	1,840	2,196
原材料及び貯蔵品	4,094	3,790
その他	3,279	3,377
貸倒引当金	△60	△56
流動資産合計	64,826	60,903
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	17,348	17,015
機械装置及び運搬具(純額)	16,556	17,090
土地	21,176	21,234
その他(純額)	5,183	7,100
有形固定資産合計	60,265	62,440
無形固定資産		
のれん	1,585	1,354
その他	2,325	2,102
無形固定資産合計	3,911	3,457
投資その他の資産		
投資有価証券	17,653	18,328
退職給付に係る資産	5,163	5,406
その他	1,726	1,656
貸倒引当金	△55	△52
投資その他の資産合計	24,488	25,339
固定資産合計	88,665	91,237
資産合計	153,491	152,140

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	19,153	17,696
電子記録債務	8,346	7,917
短期借入金	17,690	6,524
未払法人税等	990	287
賞与引当金	1,056	452
役員賞与引当金	29	20
その他	8,997	9,007
流動負債合計	56,264	41,906
固定負債		
社債	—	7,000
長期借入金	17,540	22,447
退職給付に係る負債	3,212	3,352
製品補償引当金	190	161
その他	9,323	10,753
固定負債合計	30,266	43,715
負債合計	86,531	85,621
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	16,533	16,533
資本剰余金	16,532	16,532
利益剰余金	22,560	22,724
自己株式	△1,425	△1,426
株主資本合計	54,200	54,364
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,799	9,280
土地再評価差額金	1,479	1,479
為替換算調整勘定	190	△480
退職給付に係る調整累計額	524	335
その他の包括利益累計額合計	10,992	10,614
非支配株主持分	1,766	1,540
純資産合計	66,960	66,519
負債純資産合計	153,491	152,140

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	84,696	103,514
売上原価	64,875	80,694
売上総利益	19,821	22,820
販売費及び一般管理費	16,464	20,226
営業利益	3,356	2,593
営業外収益		
受取利息	3	4
受取配当金	305	361
その他	86	148
営業外収益合計	395	513
営業外費用		
支払利息	122	307
持分法による投資損失	2	5
為替差損	31	87
その他	210	308
営業外費用合計	366	708
経常利益	3,385	2,398
特別利益		
投資有価証券売却益	79	1
特別利益合計	79	1
特別損失		
災害による損失	31	—
投資有価証券評価損	—	8
特別損失合計	31	8
税金等調整前四半期純利益	3,433	2,391
法人税等	1,139	1,042
四半期純利益	2,293	1,348
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	5	△174
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,288	1,523



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	2,293	1,348
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,064	481
繰延ヘッジ損益	△29	—
為替換算調整勘定	△189	△670
退職給付に係る調整額	△289	△189
その他の包括利益合計	△1,572	△378
四半期包括利益	721	970
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	715	1,058
非支配株主に係る四半期包括利益	5	△87

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	3,433	2,391
減価償却費	3,293	4,646
のれん償却額	15	126
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△14	△6
受取利息及び受取配当金	△309	△365
支払利息	122	307
持分法による投資損益 (△は益)	2	5
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△558	△604
製品補償引当金の増減額 (△は減少)	△46	△29
退職給付に係る資産負債の増減額	△634	△364
投資有価証券評価損益 (△は益)	—	8
投資有価証券売却損益 (△は益)	△79	△1
有形固定資産除売却損益 (△は益)	40	43
売上債権の増減額 (△は増加)	1,564	686
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△516	△640
仕入債務の増減額 (△は減少)	116	△1,443
その他	△471	△90
小計	5,959	4,670
利息及び配当金の受取額	309	365
利息の支払額	△155	△371
保険金の受取額	64	102
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△1,687	△1,493
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,490	3,273
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△6,429	△4,440
有形固定資産の売却による収入	24	38
投資有価証券の取得による支出	△3	△5
投資有価証券の売却による収入	125	1
貸付けによる支出	△3	△0
貸付金の回収による収入	21	407
その他	49	255
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,215	△3,743
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△3,651	△10,183
長期借入れによる収入	13,669	9,035
長期借入金の返済による支出	△6,729	△4,880
社債の発行による収入	—	7,000
配当金の支払額	△1,248	△1,338
非支配株主への配当金の支払額	△2	△2
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△58	—
その他の固定負債の増減額 (△は減少)	—	△1,239
その他	△151	△587
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,829	△2,196
現金及び現金同等物に係る換算差額	△41	△558
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	62	△3,224
現金及び現金同等物の期首残高	5,117	11,271
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,179	8,047

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(IFRS第16号「リース」の適用)

国際財務報告基準を適用している在外子会社は、第1四半期連結会計期間より、国際財務報告基準第16号「リース」(以下「IFRS第16号」という。)を適用しております。これにより、リースの借手は、原則としてすべてのリースを貸借対照表に資産及び負債として計上することとしました。IFRS第16号の適用については、経過的な取扱いに従っており、会計方針の変更による累積的影響額を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に計上しております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末において有形固定資産が2,662百万円、流動負債が424百万円、固定負債が2,266百万円それぞれ増加しております。当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

また、第1四半期連結会計期間の期首における利益剰余金に与える影響は軽微であります。

(企業結合等関係)

企業結合に係る暫定的な会計処理の確定

2019年2月19日に行われたProseatグループとの企業結合について、前連結会計年度において暫定的な会計処理を行っていましたが、第2四半期連結会計期間に確定しております。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、当第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に含まれる比較情報において取得原価の当初配分額に重要な見直しが反映されており、のれんとして計上していた金額の一部を組み替えております。

この結果、暫定的に算定されたのれんの金額2,100百万円は、会計処理の確定により566百万円減少し、1,533百万円となっております。また、前連結会計年度末の無形固定資産のその他は1,213百万円、固定負債のその他が457百万円、非支配株主持分が188百万円それぞれ増加しております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	生活分野	工業分野	計		
売上高					
外部顧客への売上高	48,876	35,819	84,696	—	84,696
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,737	1,121	3,859	△3,859	—
計	51,614	36,941	88,555	△3,859	84,696
セグメント利益	2,208	1,690	3,898	△513	3,385

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△513百万円には、セグメント間取引消去0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△513百万円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

3. 各セグメントに属する主要な製品の名称

- ・生活分野—— エスレンビーズ、エスレンシート、エスレンウッド、インターフォーム、これら成形加工品、ESダンマット、エスレンブロックなど
- ・工業分野—— ピオセララン、ライトロン、ネオミクロレン、セルペット、テクポリマー、テクノゲル、テクヒーター、エラスティル、フォーマック、ST-LAYER、これら成形加工品など

## II 当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	生活分野	工業分野	計		
売上高					
外部顧客への売上高	44,360	59,154	103,514	—	103,514
セグメント間の内部売上高 又は振替高	509	120	629	△629	—
計	44,869	59,275	104,144	△629	103,514
セグメント利益	2,487	669	3,157	△758	2,398

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△758百万円には、セグメント間取引消去0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△758百万円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

3. 各セグメントに属する主要な製品の名称

- ・生活分野—— エスレンビーズ、エスレンシート、エスレンウッド、インターフォーム、これら成形加工品、ESダンマット、エスレンブロックなど
- ・工業分野—— ピオセララン、ライトロン、ネオミクロレン、セルペット、テクポリマー、テクノゲル、テクヒーター、エラスティル、フォーマック、ST-LAYER、これら成形加工品など